

ブラジルの利下げについて

2012年8月31日

8月29日、ブラジル中央銀行は、同国の政策金利(SELIC(翌日物金利))を0.5%引き下げ、7.5%にすることを発表しました。これにより、ブラジルの政策金利は昨年8月に利下げに転じて以降9回、合計で5.0%の引き下げとなり、これまでの過去最低水準を更新しました。

《市場の予想通り、追加利下げ発表》

今回の政策金利引下げの背景には、景気回復の遅れが挙げられます。

ブラジルの国内景気は、資源価格の下落や欧州および中国の景気減速を受けて製造業と輸出関連企業の回復が遅れています。自動車購入に対する減税措置の延長など財政面の対策も発表されていますが、2012年4～6月期のGDP成長率が引き続き低迷することが予想されており、早期の景気底上げを図るために、追加利下げに踏み切ったと考えられます。

《今後の見通し》

●景気見通し

ブラジルでは、製造業の回復が遅れる一方、個人消費関連の景気指標には明るい兆しが見られるなど、これまでの約1年にわたる利下げのプラス効果が出ているように見えます。

また、経済面で関係の深い欧州の債務問題の解決に向けた議論が進んでいることや海外からの資金流入も続いていることなどから、景気の最悪期を脱するのは近いと思われます。

●政策金利見通し

現在の7.5%の政策金利は過去最低の水準にあることや、景気底入れの兆しが見えてきたことを踏まえると、今後の利下げ余地は限定的と考えられます。

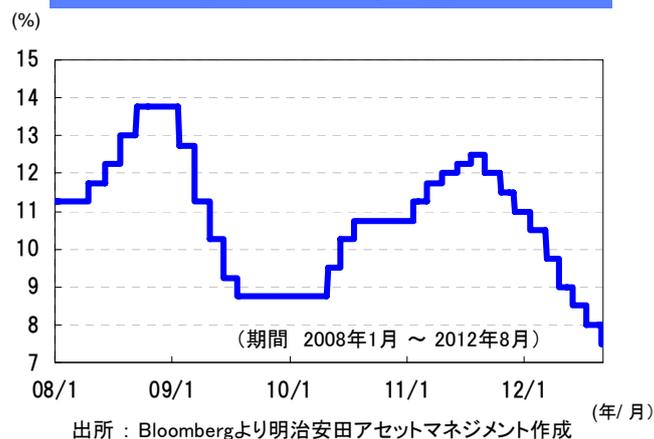
●為替

ブラジルレアルは、利下げ観測や世界景気の減速、欧州債務問題など外部環境の悪化による投資家のリスク回避姿勢から軟調に推移してきました。しかし減速が不安視されていた米国景気が底堅さを示していることや中国でも継続的な景気対策が実施されていることもあり、今後は世界景気の先行きに対する懸念も薄らぐものと思われます。また欧州の債務問題も解決へ向けた審議が進展しており、同問題に対する過度に悲観的な見方は後退しているとみられています。

ブラジルレアルについては、同国金利が他の新興国に比べても相対的に高い水準にあることや資源国としての優位性もあることなどから、投資家心理の改善とともに強含みに転じるとみられています。

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。

《ブラジルの政策金利》



《ブラジルレアルの対円推移》

